

防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

学校名：岩手県立山田高等学校

I 取組の概要

1 他校との交流を踏まえた復興教育

(1) 青森県立名久井農業高校との交流

- ・名久井農業高校の生徒が来校し、本校生徒と一緒に植栽活動を行うとともに交流会を開催
- ・名久井農業高校の生徒を招待し、フラワーアレンジメント講習会や文化祭交流を開催
- ・名久井農業高校へ生徒を派遣し、復興状況の発表や物産品交流、文化祭交流を開催
(本事業からの予算を活用)

(2) いわて・しずおか交流事業

- ・3泊4日の行程で生徒が静岡へ出向き、復興状況の発表や生徒同士の交流を実施。(主催は静岡県教育委員会。本事業からの予算活用無し)

(3) 紫波総合高校とのスポーツ交流

- ・サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部が紫波総合高校との練習試合を通じてスポーツ交流を実施。(大槌高校と合同開催。本事業からの予算活用無し)

(4) 平舘高校とのボランティア交流

- ・「山田のいちび」ボランティアを平舘高校の生徒と本校生徒が合同で実施。(本事業からの予算活用無し)

2 本校独自の復興教育

(1) サマーチャレンジやまだ2016

- ・地域の小学生を本校に招き、高校生が先生役となって小学生と交流を実施。期間は夏休みの8日間。交流活動の種類は以下の8種類。工作教室①(DNA抽出とペーパークラフト作成)、工作教室②(燃料電池カーの作成と電気パンの製作)、茶道教室、料理教室、書道教室、楽器演奏教室、紙芝居・ちぎり絵・読み聞かせ体験教室、夏休みの宿題のお手伝い。(本事業の予算を活用)



(2) 各種ボランティア、募金活動

- ・熊本地震災害募金や台風10号被害による災害募金及び泥かきボランティア、「3.11 ともしびの集い」ボランティア、仮設住宅清掃ボランティア等多くの活動を実施。(本事業からの予算活用無し)

II 取組の成果と課題

1 青森県立名久井農業高校との交流

- ・この交流事業は、東日本大震災の際、当時の名久井農業高校の先生や生徒たちが町に1校しかない、同じような環境にある県立高校を支援したいとの思いから始まった支援交流事業である。
- ・春には名久井農業高校で栽培した様々な花の苗をトラックで運んできてくれ、農業専門の教員の指導の下に本校の生徒と合同でプランターへの植栽活動を行い、心温まる他校交流ができています。
- ・幼い頃から町内の顔見知りの同級生との交流が主で、他校の生徒とのコミュニケーションが苦手な生徒たちが、一緒に作業をすることによってお互いの心の交流ができています。
- ・双方の文化祭へ行き来することによって、名久井農業高校の生徒にとってはフラワーアレンジメントの講師となって生徒や一般の来校者に授業で学んだ知識や技術の発表の場を得ることができる。本校の生徒にとっては、震災前の様子から震災を

経た現在の町の復興の様子を他県の全校生徒の前でプレゼンテーションすることができ、震災の伝承を行うことができる他、2泊3日の農家民泊を通じて食育に対する知識の習得にも効果がある。

- ・課題は、名久井農業高校の予算が未確定で、事業の継続が難しくなることが予想される点である。



2 サマーチャレンジやまだ2016

- ・中高ではなく、小高の交流のため、異年齢交流ができており、参加する小学生だけでなく、講師役の高校生にとっても精神的に成長できる交流となっている。
- ・町内の小学生を持つ保護者の方々に対して山田高校の生徒の様子を知ってもらいたい機会となっている。
- ・本事業は、本校1～2年生全員が対象のため、ボランティアを行うことに対する機運の醸成や、学校で学んだ知識を伝えることの難しさを体験することによって多くの教育効果が期待できる。
- ・課題は、長期の開催日数による担当教諭の業務量の増加と、小学校と高等学校との学校行事との兼ね合いが難しい点があげられる。